

ミニゲームで皿垣小の児童と交流する重富選手



スポーツは協力が必要不可欠 バスケットを通して寄り添う大切さ伝える

プロバスケットボールチーム「ライジングゼファーフクオカ」の選手が6月29日、皿垣小学校にやってきて児童とふれあいました。これは県とライジングによる人権・スポーツ教室の一環。ライジングに所属する重富周希選手が「受け取る人が取りやすいパスを」など全校児童60人とバスケットで交流。その後の講話では「チームスポーツは味方との協力が必要不可欠。相手の気持ちに気付けるようにコミュニケーションを」と相手に寄り添うことの大切さを訴えました。

主人公（左）を助けるために仲間が魔女（右）と戦う一幕



演劇をもっと身近に感じて 市幼稚園・保育園観劇会

市民文化会館で6月22日、市幼稚園、保育園観劇会がありました。これは、園児たちに文化芸術を身近に感じてもらうと、年長児を対象に市が毎年開催しているものです。3年ぶりに開催された今回、上演されたのは「オズの魔法使い」。竜巻でオズの国に飛ばされた少女ドロシーが、かかし、ブリキの木こり、ライオンと出会い、それぞれの願いをかなえるために旅をする話です。児童たちは「魔女が怖かった」「ライオンの動きがおもしろかった」と感想を話してくれました。

教育長に九州大会出場を報告した3人



思いを詩に乗せて 全国吟詠コンクール九州大会出場報告

6月17日、三橋庁舎を訪れた市内の学生3人が、全国吟詠コンクール九州大会出場を教育長に報告しました。吟詠とは、詩に節をつけて歌うこと。少年の部1位の宿利実生さんは「また九州大会に出場できてうれしい。このまま全国大会まで勝ち進みたい」と抱負を語りました。報告者の成績は次のとおりです（敬称略、かっこ内は学校名）。少年の部1位＝宿利実生（三橋中2年）、少年の部2位＝宿利咲生（伝習館高校3年）、幼年の部入賞＝菊次竜弥（藤吉小3年）

ネット際では激しい空中戦が繰り広げられた



暑さに負けない女性たちの熱戦 柳河校区分団対抗女子ソフトバレー大会

6月26日、柳河校区分団対抗女子ソフトバレー大会が市民体育館でありました。分団ごとに編成された7チーム、80人が参加。大会前の練習の成果を発揮し、熱戦が繰り広げられました。予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち抜いた4分団が見事に優勝。優勝に貢献した林麻里さんは「試合の後でも家事や子育てが待っている、けがに注意してプレーしました。これをきっかけに日頃の運動を心掛けたいですね」と笑顔で話してくれました。



ユーモアを交えて語る滝沢さん



最後は参加者全員で決意を宣言

横尾先生が白秋の学生時代について熱弁しました



白秋の学生時代に思いをはせて 白秋を語るタベが3年ぶりに開催

水の郷ホールで7月3日、白秋を語るタベが開催されました。当日は67人が参加し、市内を中心に活動する音楽家の古賀理紗さんによる白秋の詩の独唱でスタート。その後、講師の横尾文子佐賀女子短期大学名誉教授による講演がありました。講演では、白秋の名前がくじ引きで決まったことや、白秋が旧伝習館中学1年のとき、夏目漱石が同校を参観していたことなどを説明。横尾先生は「これをきっかけに白秋を知る人が増えてほしい」と今後の希望を話していました。



身近な話題などお知らせください。情報をお待ちしています。
【問】企画課広報広聴係（☎77・8425）

ごみ減量へ一層の協力を ごみ減量決起大会を開催

ごみ減量決起大会が6月25日、市民文化会館で開催されました。市民約400人が参加した大会では、市の担当者が平成30年から続けてきたごみ減量大作戦の成果として、1世帯あたり年間21袋削減したことを報告。記念講演では、お笑い芸人（しゅういち）をしながらごみ清掃員として働く滝沢秀一さんが、現場での体験をふまえてごみ減量へのポイントをユーモアを交えてアドバイス。大会の最後には、市クリーン連合会の中川辰蔵会長がさらなるごみ減量への決意を宣言し、参加者とともにごみ減量の推進を誓いました。

市長に全国大会出場を報告した柳川クラブ



9人でつないだ全国への道 柳川クラブがバレーボール全国大会出場

市内で活動する社会人バレーボールチーム「柳川クラブ」が、9人制バレーボールクラブ大会の県予選を勝ち抜き、全国大会出場をつかみ取りました。7月6日にクラブの牛島正樹監督と川口聡コーチ、選手代表の大城一樹さんが金子市長を訪問。大城選手は「チームの半分以上の選手にとって初めての全国大会。1戦1戦大事に戦い、上を目指していきたい」と全国大会への意気込みを語りました。全国大会は8月11日から浜松市で14日まで開催されます。